

研究タイトル:

室町後期の『源氏物語』享受に関する研究



氏名: 川渕 紗佳 / KAWABUCHI Suzuka E-mail: kawabuchi@fukui-nct.ac.jp

職名: 助教 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 中古文学会、中世文学会、中古文学会関西支部、大阪大学国語国文学会、大阪大学古代中世文学研究会

キーワード: 日本文学、『源氏物語』、連歌、古注釈書

技術相談
提供可能技術: ・『源氏物語』に関する講演・公開講座
・連歌に関する講演・公開講座
・古典籍に関する講演・公開講座

研究内容:

【連歌師による室町後期の『源氏物語』享受】

平安時代に成立した『源氏物語』は、さまざまな地でさまざまな人々に読み継がれることで今日まで伝えられてきました。ただし、読み継がれたといっても平安時代の古語で書かれた『源氏物語』は、必ずしもその原文のまま読まれていたわけではありません。注釈書(解説書)を使用して読んだり、梗概書(ダイジェスト版)であらすじを理解しようとしていたりしていました。時には、『源氏物語』に詳しい人に講釈(説明会)を開いてもらうこともありました。現代人も、「『源氏物語』について知りたい」と思ったときには、現代語訳版や漫画化された作品を読んだり、詳しい人に教えてもらったりすることが多いかと思います。それと似たことを昔の人もしていたわけです。

幅広い時代の中でも、室町後期(1470~1570年代)に『源氏物語』がどのように享受されていたのかを研究対象としています。特に当時活躍していた「連歌師」と称される人々に注目しています。連歌師は、日本各地でさまざまな人々に古典の講釈活動を行っていました。連歌とは、5.7.5の句と7.7の句を交互に複数の作者が詠み連ねて、通常100句で完結させる文芸です。この連歌を詠む会に参加するためには、『源氏物語』をはじめとした古典の知識が求められたのです。そのため、彼らが、『源氏物語』を対象として、どのような注釈書を作成し、どのような講釈を行っていたかを解明することで、室町後期の享受の全体像を捉えたいと考えています。

【古典文学作品と地域支援】

これまで、以下のような地域貢献活動を行ってきました。

- ・「国学者の『枕草子』研究—春曙文庫蔵『枕草子春曙抄』を手がかりとして—」第二回春曙文庫セミナー、相愛大学、2024年3月
- ・「『源氏物語』の成立に関する諸説」帝塚山大学奈良学総合文化研究所公開講座 名品・名作誕生XX、帝塚山大学、2025年2月

いずれも、古典に興味のある近隣住民の方々に向けて行った講演です。これらの経験を生かし、古典文学作品に関心のあるの方々に向けて講演活動を行うことで、地域貢献ができればと考えています。